

ときめき人

Tokimeki bito



妻と共に 苦難を乗り越え 全国の舞台上 栄光つかむ

追町・三方島

佐々木 敏朗さん

ささき としろう
1950年生まれ 血液型/A型

Profile

仙台牛枝肉共進会 in Tokyo
では、昨年から2年連続で最
高賞のチャンピオン賞に輝
く。消防団活動にも尽力。市消
防団団長などを務め、2018年
秋に藍綬褒章を受章。

(右)名誉賞を受賞した枝肉と
佐々木さん。



牛肉の品質を競う「第21回全農肉牛枝肉共励会」は7月5日、東京食肉市場で開かれ、佐々木さんが最高位の名誉賞を受賞した。サシがきめ細やかで、「芯」と呼ばれるロースの中心部分がほかとは比較にならないほど大きく、審査員全員が佐々木さんの牛肉を名誉賞に選んだ。「牛の体形が良かったので、入賞できるかもしれないと思っていましたが、まさか名誉賞とは驚きました」と喜びの表情で振り返る。

畜産業を始めたのは20歳の時。当時農耕用として飼っていた牛1頭から始まった。その後、徐々に頭数を増やし、今では繁殖牛、肥育牛合わせて約170頭まで拡大。甘みがあり、くどくない脂が特徴で、首都圏の飲食店関係者からも好評を得てい

る。上質な脂にするために、こだわっているのは飼料。10年ほど前から、独自に配合した餌を与え、何度も改良を重ねながら肉質の向上に取り組み、その努力がついに実を結んだ。

「ここまで規模を拡大し、続けることができたのは何よりも妻の協力があつたからです。青年会などの活動で家を空けることも多くありましたが、一生懸命手伝ってくれました。BSEなど、数々の苦難も支えてくれたから乗り越えることができたと思います」と妻のもとめさんに感謝する。

「今回の受賞はとても励みになりました。これからも『おいしい』と言ってもらえるように努力していきます」。全国の舞台上で栄光をつかんだ佐々木さん。その目は、すでにその先を見据えている。

編集後記

▼今号は英語教育を取材。ALT一人一人が、授業内容を分かりやすいように工夫し、それぞれの思いを持って取り組んでいました。子どもたちもそれに応えるように真剣な表情に。一生懸命な姿勢が、思いを伝える一番の方法だと感じました。(三浦)

▼佐沼高の千葉主将の選手宣誓で幕を開けた第101回全国高等学校野球選手権宮城大会。佐沼高は、仙台三高との激闘の末に惜しくも敗れました。夢には手が届きませんでした。感謝の気持ちを含めたという選手宣誓は、多くの人たちの心に届いたのではないでしょうか。(高橋)

▼夏といえば海。海で目を開けて泳ぐアニメーションに、あり得ないと思っていました。が、海水では痛みを感じずに目を開けていられると、つい最近知りませんでした。できないと思っていることが、やればできることかもしれません。何事も決めつけず柔軟な思考を大切にしていきたいと思います。(小野寺)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>

